景観スケールに応じたデザインコードの例

農村景観を眺めるスケールとして、大景観、中景観、小景観があり、各景観スケールにおいてデザインコードを認識することができます。

大景観レベルのデザインコード
大景観レベルでは、主に地域の地形条件における農地、集落の土地利用の規則性にデザインコードが認められます。

【配置】農地に広がる散居村の集落：岩手県
広大な農地内に点在するように農家が配置されている土地利用の状況が、当該地域の大景観レベルでのデザインコードといえます（配置）。

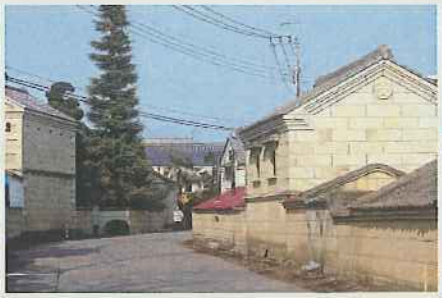
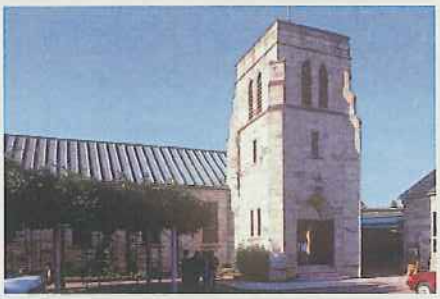
中景観レベルのデザインコード
中景観レベルでは、農家の家並みや耕作地、境界域に共通した要素をみつけることができます。

【色】統一感のある越前瓦の色彩：福井県
当該地域では、民家の屋根瓦に越前瓦が多く用いられ、独特の銀ねずみ色の色彩が統一感のある集落景観を形成しています（色）。

小景観レベルのデザインコード

デザインコードは、人為の有形物です。そのため、大・中景観レベルと比較すると人為的な要素をより多く認識することができる小景観レベルにおいては、デザインコードも多種多様にわたります。
さらに、棚田や農家など景観を構成する一つの要素に対し、「配置」、「色」、「形」、「素材」、「植栽」といった複数のデザインコードが組み合わさっている場合もあり、注意が必要となります。

【配置】・【植栽】 はさがけに用いる樹木：新潟県
はさがけは、当該地域に残る伝統的な農法で、樹木を活用するやり方が特徴です。水田の周りには数本単位で樹木が植栽され（配置、植栽）、現在でもこのような樹木がみられます。
このように、伝統的な農法や技法に用いる施設や植栽の中にデザインコードとなる要素が見つかることもあります。

【素材】 大谷石を活用した建築物：栃木県
大谷石は栃木県宇都宮市で採掘され、耐火性能が高く、軽量で柔らかく加工が容易であることから、蔵や塀、建物の外壁などに用いられています。
耐火性、耐久性など、建材としての性能が優れた地場産材は、家屋や公共施設など地域内の随所で活用されている場合が多くみられます（素材）。

【配置】・【形】・【植栽】 輪中地域における水屋：三重県
輪中地域には、水害を防ぐための水屋が建設されています。
水屋は冬の季節風を防ぐために母屋の西側か北側に建てられ（配置）、防風、盛土の崩壊を防ぐために松や竹などが周囲に植栽されています（植栽）。
さらに、盛土の崩壊を防ぐための石積みには、均等な大きさの石を用いた玉石積みが多くみられます（形）。
当該地域では、このようなデザインコードが組み合わさって特徴的な水屋が造られています。

【形】 石積みの構造・工法：岐阜県
坂折棚田の石積みは、下部に大きな石、上部に小さな石を積んだ構造（工法）となっています。
このような構造による石積みの形がデザインコードとなり、今日における石積みの改修では、このデザインコードが踏襲されています（写真右）。

ＳＴＥＰ８　対象施設周辺の景観について整理しましょう

ＳＴＥＰ６の調査結果を踏まえ、対象施設周辺の景観特性を整理します。

ここで、整理した景観特性は、施設整備の景観配慮に向けた住民の意向を把握する（ＳＴＥＰ９）ための資料として活用します。また、デザインコードの収集（ＳＴＥＰ７）を含めた整理を行うと、施設整備における詳細なイメージを固めることができます。

施設周辺の景観特性の整理の考え方

ＳＴＥＰ２と同じように、景観特性を表や図で整理します。

景観特性表は、地域の景観要素の特徴を効果的に把握するために、景観特性図は施設周辺の景観構成（土地利用の状況や景観構成要素の所在）を把握するために作成します。

施設周辺の景観特性の整理項目と例を下の表を挙げます。

景観要素	景観特性の整理項目	例
自然・地形	・対象施設周辺の地形条件 ・山などの自然景観がどのように見えているか、どこから見えているか	・施設周辺の微地形、地質の状況 ・施設の背後に山や川などが見える道路、人が集まる場所、その見え方
土地利用	・農地や宅地など対象施設周辺の土地利用の現況	・農地、宅地、林地などの景観的なまとまりの様子
施設・植栽	・施設周辺での特徴的な景観構成要素 ・周辺で共通して見られる景観構成要素（ＳＴＥＰ７：デザインコード）	・屋敷林、屋根、壁、家屋配置などの屋敷の造り ・作物の品目や景観作物の栽培状況 ・水路やポンプ施設などの農業用施設
歴史・文化 アイデンティティ	・モノの見え方だけではなく住民にとって、その場所やそのモノの価値を把握する	・生活、生産、憩いの場など ・施設周辺の日常的な景観管理の仕方

ＰＯＩＮＴ：施設周辺の景観調査における景観スケール

施設周辺の景観調査では、中景観から小景観レベルの景観特性に着目して調査を行います。特に、小景観レベルでは、農家や屋敷の造り、沿道の植栽の種類や色、擁壁の石積みの素材といった、より具体的な点に注目して特徴的な景観を構成する要素を収集します。

中景観レベルで捉えられる、地形に馴染んだ（緩やかな斜面に沿った）農地、集落の土地利用の状況

小景観レベルで捉えられる水路の土羽法面や緩やかに蛇行する線形、特徴的・象徴的な農家や地蔵堂の造り

施設周辺の景観特性図のイメージ

① 生活道となっている農道から、ため池（整備対象）を望む。
手前の露地野菜畑の景観が広がる。

② 対岸の墓地、堤防の植栽がため池のランドマーク（目印）となっている。

③ 平坦な干拓地の露地野菜畑、ハウスが特徴となっている。

④ 堤防道路からの視点。
農地に宅地が分散している。

⑤ ため池のランドマーク（目印）となっている墓地。

⑥ 用排水路が分離された直線的な水路網

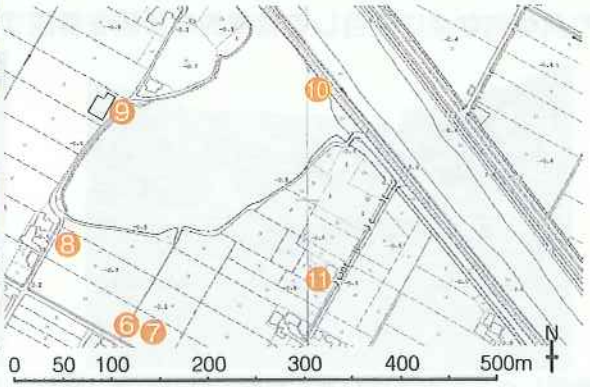
⑦ 稲の栽培

⑧ 特産であるレタスなどの葉物野菜の栽培する畑地

⑩ 周辺でよくみられる石灰岩質の石材の活用（デザインコード）
さらに、この石積みは、大正・昭和初期に建造された歴史的な景観構成要素である

⑨ 周辺でよくみられる独特の形に刈り込まれた庭木
（デザインコード）

⑪ 周辺でよく見られる屋敷の形態（デザインコード）
・敷地入り口がゲート状になっている
・敷地内の家屋配置に共通点がある（敷地の奥に母屋、手前に納屋・作業所を配置）



ＳＴＥＰ９　景観に関する住民の意向を把握しましょう

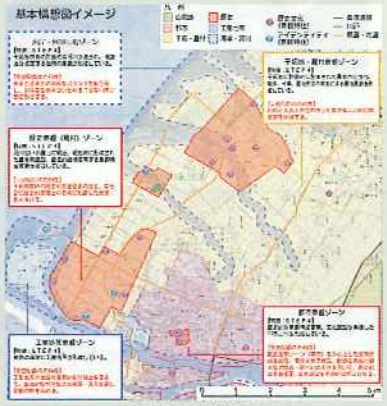
地域景観の基本構想（ＳＴＥＰ１～５）と対象施設周辺の景観特性を踏まえて、施設整備の景観配慮計画をとりまとめます。

ＳＴＥＰ９では、住民の意向を抽出し、施設周辺の景観、生態系などについての整理を行い、ＳＴＥＰ10で景観配慮についての計画をとりまとめます。

地域住民の意向の把握

ここでは、住民とのワークショップを通じて、整備における住民意向を抽出します。

基本構想図（ＳＴＥＰ５）の施設立地場所の景観配慮の方向性、施設周辺のデザインコードや景観特性のとりまとめ（ＳＴＥＰ７、８）を参考にしながら、住民の自由な意見を促します。この際に、**景観だけではなく、生態系に関連する意見など**、広いテーマを話題としましょう（次頁：ＰＯＩＮＴ参照）。そして、施設整備における景観、生態系などを含む住民の意向を整理してとりまとめます。



基本構想図
ＳＴＥＰ５

デザインコード整理表
ＳＴＥＰ７

施設周辺の景観特性図・表
ＳＴＥＰ８

施設が立地するゾーンの景観配慮の方向性

住民参加による自由な意見

景観に関する意向の抽出

地域住民の景観に関する意向のとりまとめ（次頁参照）

POINT：ワークショップで住民の意見を積極的に引き出すには

ワークショップでは、住民の活発な意見が出ることが重要になります。
そのため、以下のような、住民の意見を引き出す工夫が必要になります。

- **調査で撮影した写真を持ち込む**などの工夫が大切になります。また、**調査に一緒に参加してもらう**ことは意見を引き出すために、より効果的な方法になります。
- 景観調査（ＳＴＥＰ６）を行う際に、**住民と立ち話程度に日常的な観点からの景観について聞き取り**をしていると、ワークショップでの話題提供に役立ちます。
- ワークショップの進行役・事務局（行政担当者）は、住民の意見の選択肢を増やすために、**ＳＴＥＰ１や６で収集・整理した関連施策や計画などの情報を住民に提供する**ことが重要となります。
- 住民からの意見を出してもらう際に、景観のみに話題を限定すると、なかなか意見が出にくいこともあります。そのため、**景観に限らず、施設周辺の生態系や住環境を含む広いテーマから住民の意見を聞き、景観に関連する意見を拾い上げる**などのやり方が必要になります。

地域住民の意向のとりまとめ

対象施設周辺における景観、生態系などを含む住民の意向を抽出した後、事務局は施設周辺の地図に具体的な場所と内容を関連づけて記入し、とりまとめます。この際に、景観、生態系、その他、などについての住民の意向を色分けして整理します。